# 令和４年度　江戸川区立小岩第四中学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

| 学校教育目標 | 明るく、心身ともに健やかで　ひとりだちができる心の豊かな人間の育成<br>・自主　自ら学び、考え、正しく判断して、責任をもって行動する<br>・品位　礼儀正しい態度と丁寧な言葉から生み出される人間としての内面の美しさ<br>・明朗　明るい笑顔ですべての人の幸せをつくり出す<br>・友愛　思いやりをもってすべての人に優しく温かく接する | 目指す学校像<br>目指す児童像<br>目指す教師像 | ・活気にあふれ、常に生徒の明るい声が聞こえる学校　・安全・安心で、すべての生徒が生き生きと活動できる学校・生徒が学ぶ楽しさを味わい、生きる力を身に付けることができる学校<br>・生徒・保護者・地域に信頼され、共に学び学校・伝統を重んじて継承し、開かれた学校　・生徒が学びやすく教師が教えやすい、環境づくりに努める学校<br>・自ら進んで主体的に学習する生徒　・自分の意見を自信をもって伝え、他人の意見を受け入れることができる生徒・互いに尊重し合い、思いやりの心をもって人間関係を築ける生徒<br>・校訓や生活指導指針「お（思いやり）み（身だしなみ）そ（挨拶）あ（あいさつ）じ（授業）」を自ら実践する生徒・豊かな人間性と思いやりのある教師　・主体的に、熱意をもって教育に真摯に向き　合う教師・自己研鑽に励み、互いに高め合う教師　・公務員としての自覚をもち、服務の厳正に努める教師 |
|---|---|---|---|

| 前年度までの学校経営上の成果と課題 | ＜成果＞図書館の整備。１人1台端末を活用した教育の推進。新聞の閲覧者増加。いじめ撲滅宣言により、いじめに対する意識向上。<br>＜課題＞新学習指導要領に沿った授業についての研修。ICTの有効的な活用。家庭学習の習慣化。不登校生徒対策。 |
|---|---|

| 教育委員会重点課題 | 取組項目 | 評価の視点 | 具体的な取組 | 数値目標 | 自己評価 | | | 学校関係者評価 | | 来年度に向けた改善策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 取組 | 成果 | 成果と課題 | 評価 | コメント | |
| いきいきと学ぶ学校づくり | 確かな学力の向上 | ・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上<br>・基礎・基本的な知識・技能の習得及び知識や技能を活用する力や問題解決能力の向上 | ・年3回の研究授業・授業参観週間や研究協議による授業改善<br>・各教科指導において、解決型授業展開の実施。主体的・対話的で深い学びの実施<br>・基礎基本の定着を図るための演習と復習プリント・問題集・eラーニングの活用 | ・全教科で学びあい・教えあいの活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びを実践する。<br>・授業が分かりやすい、楽しいと思う生徒の率が9割以上<br>・eラーニングの活用で演習に自主的に取り組む生徒7割以上<br>・eラーニングを活用したスタディウィークを年間3回実施 | A | B | ・対話的な授業を目指し、実践している。<br>・eライブラリを活用したスタディウィークの取組みを実施し、期間内の生徒活用率は向上した。<br>・eライブラリの活用で演習に自主的に取り組む生徒が増加した。 | A | ・生徒が楽しいと感じられる授業をこれからも継続してほしい。<br>・生徒の力で課題解決できる授業の展開と学力低下の生徒に対しての補教の充実をお願いしたい。<br>・eライブラリの活性化をお願いしたい。 | ・校内研修や授業参観週間をさらに授業力向上研修とし、見る視点・評価する視点を明確にして、課題解決型の授業力向上を目指す。<br>・eライブラリの活性化を目指す。<br>・自宅学習に取り組む生徒が少ない傾向にあるので、自主的の取り組める力を育成する。 |
| | 体力の向上 | ・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上 | ・補助運動を毎授業で実施<br>・食育、給食指導の充実 | ・体力が向上した生徒が9割<br>・食育を通して食への理解を深めた生徒が9割 | A | A | ・コロナ禍のため、部活動に制限がある中、工夫しながら体力向上への取組ができている。食への理解を高めている生徒は9割以上いる。<br>・体力テストの結果、体力が向上した生徒が多くなった。<br>・マラソン週間で、体力の向上や、お互いを励ます態度の育成を育むことができた。 | A | ・コロナ禍でも、マスク等、工夫しながら取り組んでいた。少しでも体力向上を許られたと思う。<br>・運動会では、生徒の躍動した姿が見られた。 | ・持久走に力を入れ、体力向上を目指す。 |
| | 読書科の更なる充実 | ・読書を通じた探究的な学習の充実（読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えを まとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等）<br>・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実 | ・図書館の活用及び読書科における成果物の作成<br>・各教科で図書館を利用した学習計画を作成 | ・読書科における成果物の作成および発表<br>・図書館を利用した学習において理解が深まった生徒が8<br>割を目指す。 | A | B | ・図書館司書を導入したことにより本の整理が行き届いている。<br>・新刊図書の購入も、生徒のニーズに合った本を揃えることができている。<br>・図書館を利用した学習が、まだ各教科できていない現状であり、課題が残る。また授業展開するには、本が不十分であることもある。 | B | ・読書に親しむ生徒の割合を知りたい。<br>・新刊図書をもっと目立つ場所に設置したらどうか。<br>・ビブリオバトルを開催してほしい。先生・保護者・地域の出場もあると、地域活動につながると思います。 | 各学年の読書量を集計し、分かるようにする。今年度も定期的に読書量調査を行い、新刊情報を提供するとともに、委員会新聞を定期的に発行し、読書量改善に努める。<br>また、教科の中で、図書館を利用する働きかけを行う。 |
| | 「学校における働き方改革プラン」 | ・時間外勤務時間を週45時間以内<br>・採点ナビを活用した、採点時間・処理の短縮<br>・ICT機器を活用した授業準備の短縮 | ・時間外勤務が週45時間以上の教員には、退勤目標時間を明確にし、早く帰る習慣を学校全体に浸透させる。<br>・採点ナビを導入し、お互いに教えあい、使用できるようする。<br>・ICT機器を活用し、教材準備の削減を実現し、各教科で共有する。 | ・時間外勤務が週45時間以上の教員の人数を0人に近づける。<br>・採点ナビを使用する教員の割合を100％に近づけ、採点処理時間の短縮を目指す。<br>・1人1台端末の活用率100％を目指し、教材の共有を図る。 | A | A | ・時間外勤務が週45時間以上の教員の人数が減ってきて<br>いる。<br>・採点ナビを使用する教員の割合が70％となり、採点処理<br>時間の短縮ができた。<br>・授業中にiPadを使用する生徒の割合が増えた。 | A | ・時間外勤務が週45時間以上の教員の人数が減ってきて いると聞いて、先生方の働き改革の意識の高さを感じる。<br>・採点ナビを使用しての採点は、時代を感じる。少しでも<br>先生方の軽減になるのなら、新しい試みを導入していってほしい。<br>・勤務時間がオーバーしても、やる気のある教員に対しては、寛容な体制の方が上手くいくように思う。 | ・時間外勤務が月45時間以上の教員の人数を0人にする。<br>・採点ナビを使用する教員の割合を100％にする。<br>・iPadを使用する授業展開を考え、活用していく。<br>・45時間を目指すために、時間軽減ができる仕事は何があるのかを、検討し、解決策を探し、実践していく。 |
| 特別支援教育の推進 | 共生社会の実現に向けた教育の推進 | ・特別支援委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実<br>・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実<br>・エンカレッジルームの活用促進<br>・副籍交流、交流及び共同学習の充実 | ・特別支援委員会を隔週で開催<br>・校内伝達研修会を年2回開催<br>・話し合いの中で、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の仕方<br>エンカレッジルームの効果的な活用 | ・特別支援を必要とする生徒の不登校ゼロを目指す。 | B | B | 特別支援委員会を毎週開催し、情報共有ができている。また、特別支援を必要とする生徒の不登校は0ではないが、減少してきている。 | A | ・不登校生徒の対応を引き続きお願いしたい。<br>・学校は個に応じた指導を行っている。 | ・委員会より提示された生徒の対応の仕方を共有すると共に、研修を深める。安否が確認できない状態になっている生徒に関しては、SSWや関係諸機関と連携して指導にあたる。<br>・児相との連携を深め、通告する生徒の検討を、組織として定期的に検討をしていく。 |
| | 子どもたちの健全育成 | ・すべての生徒が安心して過ごせる安全な学校をつくるため、規範意識を育み、いじめや暴力行為、体罰や不適切な言動を排除する。<br>・生徒会による「いじめ撲滅宣言」の提言 | ・家庭と連携し、ネット犯罪やネットいじめの防止を図る<br>・生活習慣のアンケートを年5回実施<br>・いじめ撲滅運動の意識を高めるために、各学級でもいじめについて討議 | ・ネット利用上のルール・マナーを守っている生徒が9割以上<br>・生活習慣が整っている生徒が9割以上<br>・いじめ撲滅に対する意識が高まる生徒が9割以上 | A | A | ・家庭内ルールを守っている生徒や生活習慣を整えている生徒が9割いる。<br>・生活習慣が整っている生徒が9割以上いる。<br>・いじめ撲滅に対する意識が9割以上の生徒に浸透している。 | A | ・いじめのない学校の構築に教員、生徒が協力して取り組んでいると思う。生徒会が取り組んでいる「いじめ撲滅宣言」が意識向上につながっていると思うので、持続してほしい。<br>・いじめは数件あったようですが、素早く対応していただき、安心して学校に任せられると感じた。 | ・生徒会が主体的に行っている、SNSルールを校内でさらに深め、モラル意識の向上を目指す。<br>・生徒を主体としたいじめ撲滅の取り組みを継続する。<br>・いじめアンケートの結果をみて、学年・学級で素早く対応し、未解決の問題は0とする。 |
| 学校と家庭、地域、関係機関との連携強化 | 保護者評価・学校関係者評価の充実 | 教育活動の改善・充実に向けた保護者評価・学校関係者評価の実施・改善 | ・学校公開日での参観実施<br>・学校行事等の参観実施<br>・回答しやすい項目の改善 | ・生徒の学校目標に対しての取組・意欲等の評価が良いを8割以上<br>・回答項目で、分からないという項目が無いようにする。 | A | A | ・運動会を公開できた。<br>・授業参観を4日間公開できた。<br>・作品展示を公開できた。 | A | ・学校公開で、生徒の授業態度を見て、感心するほど集中しており、先生方の指導の結果だと思った。<br>・保護者評価をiPadで行い、素早く対応していた。<br>・作品展を見て、生徒の力に驚かされました。 | ・学校公開で、プールの授業参観はしないことを事前に連絡する。<br>・保護者アンケートで、評価が低い項目に対して、対策を考える。特に学習時間が、30分以上している生徒が少ないという結果だったので、自主的に学習に取り組む生徒の育成を行う。 |
| | 家庭・地域・関係機関との連携 | ・学校公開、三者面談、保護者会等の実施<br>・近隣小学校との連携<br>・関係諸機関との連携<br>・学校だより・学校HPの活用 | ・学校公開週間（8/30～9/3）、土曜公開授業年間4回、三者面談年2回実施<br>・8月に小学6年生対象体験授業・部活動体験実施<br>・学校だより月１回の発行<br>・学校HP毎週1回更新 | ・学校公開等、保護者参加8割以上<br>・8月に体験授業・部活動体験　小学生の参加9割以上<br>・関係諸機関との素早い報告・対応9割以上<br>・学校だより月１回の発行実施<br>・学校HP毎週1回更新実施 | A | B | ・学校公開週間（8/30～9/3）、土曜公開授業、三者面談を実施できた。<br>・8月に小学6年生対象体験授業・部活動体験を実施できた。<br>・学校だよりを月１回発行した。 | A | ・学校公開に多数の保護者参観があり、教育に関心のある保護者が多く、安心した。<br>・学校だよりを、毎月発行していただき、学校の様子が分かる。<br>・お祭りが復活すると、関係はもっと深まる。<br>・西小岩・北小岩小と避難開設について連携して取り組めることを期待しています。 | ・近隣小学校との連携が、コロナのため数年途絶えているので、再開の準備を進めていく。<br>・お祭りが復活すれば、地域との関係を深める努力をする。 |
| 特色ある教育の展開 | 主体的・対話的で深い学びの研修・実践 | ・思考力・判断力・表現力を育成する授業の実践<br>・指導法や教材の工夫・改善を図り、基礎学力の定着を目指した授業の実践 | ・教員同士の授業参観・意見交換<br>・校内研究授業の実施<br>・ICT研修を行い、工夫した授業展開を実施 | ・年3回の校内研究授業実施<br>・年3回「（教員同士の）授業参観週間」実施<br>・ICT研修を年間3回実施 | A | A | ・iPadを使用した、工夫した授業展開を試みることができた。また、ライブ配信の授業も順調に行っている。<br>・ICT研修を実施できた。 | A | ・コロナ禍でiPadを利用したリモート授業の展開に感謝したい。今後もすべての授業がリモートになる可能性があるので、自宅においても生徒たちに分かりやすい授業の展開を先生方で研修を深めてほしい。 | 今後、コロナ禍で対話的な学びが制限される場合、GIGAスクール構想で1人1台のパソコンを活用した授業展開で、学びあいを強化する。 |
| | 外国とつながる生徒への支援・国際理解教育の充実 | ・日本語学級設置校としての特色を生かし、日本語教育、英語教育、国際理解教育を充実させ、世界で活躍する人材の育成を目指す。<br>・日本語の指導法についての研修を | ・ルビ振り、電子辞書の活用等の合理的な配慮の実施<br>・進路説明会や面談、在籍校訪問等による在籍校との連携 | ・進路説明会、面談、在籍校訪問の実施 | A | A | ・日本語指導員や日本語学級指導、進路指導など丁寧に行っている。<br>・日本語学級において、リモート授業も試みている。 | A | ・オリンピック等を通じ、他国の歴史や言語などの理解を深めていってほしい。<br>・日本語学級を含め、外国の生徒の割合が多いので、大変だとは思うが、丁寧な指導をお願いしたい。 | 外国につながる生徒が多いので、個に応じた指導を継続する。 |